
平成25年3月期第2四半期(累計)

(平成24年1月21日～平成24年7月20日)

決算参考資料

平成24年8月30日

(株)サガミチェーン

東証・名証1部上場 コード:9900

設立:1970年3月 資本金:63億300万円

株式会社サガミチェーン

目次

1. 連結対象企業の事業内容	_____	P2
2. 平成25年3月期第2四半期(累計)の業績概況	_____	P2
3. 財政・キャッシュフローの概況	_____	P3
4. 店舗展開の状況	_____	P3
5. 平成25年3月期第2四半期(累計)の業績背景	_____	P4
6. 平成25年3月期業績の予想	_____	P5

1. 連結対象企業の事業内容

○連結子会社の対象範囲は4社であります。

[連結子会社]

名称	住所	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容	議決権の 所有割合 (%)
株式会社ディー・ディー・エー	名古屋市守山区	200,000	飲食店の経営 フランチャイズ店舗へ の材料提供及び経営指 導	100.0
株式会社サガミサービス	名古屋市守山区	10,000	損害保険及び生命保険 の代理業務 店舗設備のメンテナン ス業務	100.0
株式会社エー・エス・サガミ	名古屋市守山区	70,000	飲食店の経営 輸出入業務	100.0
上海盛賀美餐飲有限公司	中国上海市	260,000	飲食店の経営	93.4

2. 平成25年3月期第2四半期(累計)の業績概況

○連結ベースの経営成績

単位 (百万円/円)	平成23年 7月期	平成24年 7月期	前年比 (%)
売上高	9,530	9,152	△4.0
営業利益	△115	97	—
経常利益	△114	112	—
四半期 当期純利益	△369	43	—
一株あたり 四半期 当期純利益	△15.14	1.79	—

○第2四半期決算の配当について

第2四半期決算の配当につきましては、平成24年3月1日発表の通り見送ることといたしました。

○株主優遇策について

平成24年7月20日現在に当社株式を一千株以上保有の株主様に対し、1万5千円相当(通期換算 3万円)の株主優待食事券を進呈いたします。

3. 財政・キャッシュフローの概況

○連結財政状態

単位 (百万円/%/円)	平成23年 7月期	平成24年 7月期
総資産	15,342	14,368
純資産	9,734	9,346
自己資本比率	63.3	64.9
一株あたり純資産	398.6	382.8

○連結キャッシュフローの状況

単位 (百万円)	平成23年 7月期	平成24年 7月期
営業活動によるキャッシュフロー	△98	△195
投資活動によるキャッシュフロー	79	△185
財務活動によるキャッシュフロー	△214	△292
現金及び現金同等物 期末残高	2,389	2,350

○設備投資について

連結設備投資は 326百万円（H23.7実績 65百万円）となりました。

○減価償却費について

減価償却費は 177百万円（H23.7実績 226百万円）となりました。

4. 店舗展開の状況

	平成24年1月期	平成24年7月期 (第2 四半期末実績)			平成25年3月期計画 (3/1発表 通期計画)		
	店舗数	出店	閉店	店舗数	出店	閉店	店舗数
サガミ	130	—	1	129	—	7	123
どんどん庵	63	—	12	51	—	7	56
あいそ家	13	1	2	12	1	2	12
上海盛賀美	6	1	2	5	2	1	7
製麺大学	4	—	—	4	—	—	4
盛賀美SAGAMI	1	—	—	1	2	—	3
その他	7	4	1	10	12	—	19
合計	224	6	18	212	17	17	224

○第2四半期の店舗展開の状況について

第2四半期における店舗数の変化は、東名高速道路上り線新城PAに出店した「陣屋サガミ」と、上海盛賀美の南京西路店の閉店によるものです。サガミグループとして高速道路に出店するのは、新城PAの「陣屋サガミ」が初めてであります。

○平成25年3月期の店舗展開の計画について

平成24年3月1日に発表しました計画に沿って進んでおります。どんどん庵につきましては、改善計画が予想よりも早く進んでおりますので、不採算店舗の閉店を前倒しで実施しております。

5. 平成25年3月期第2四半期(累計)の業績背景

- (1) 第2四半期累計期間の連結業績につきましては、前年同期比で減収・増益となりました。売上高の減少は子会社の売却及び不採算店舗閉鎖によるものであり、主力業態であります「和食麵処サガミ」の既存店売上高は、前年同期比で1.1%増加しております。当期純損益が黒字になりましたのは、平成13年7月期に中間連結財務諸表規則制定に伴い中間連結会計導入後、初めてとなります。また、単体での当期純損益の黒字化は12期ぶりとなります。
- (2) 第2四半期累計期間の取り巻く環境は、昨年3月の東日本大震災からの復興需要などを背景に緩やかな回復傾向にあるものの、海外における新興経済地域の一部での成長鈍化や欧州債務危機の再燃、円高の長期化などの影響を受け、依然として不透明な状況で推移しております。
外食産業につきましても、景気回復と連動する形で緩やかに外食支出は回復してきておりますが、お客様の低価格志向の定着、中食需要の高まりなど小売業を巻き込んだ食市場の争奪戦となっております。
- (3) 主力業態「和食麵処サガミ」の既存店の状況につきましては、客数が前年同期比で3.5%の減少となりましたが、客単価が前年同期比で4.6%増となった結果、売上高は前年同期比で1.1%の上昇となりました。
- (4) 上半期(平成23年2月期～平成23年7月期)の経常利益は前年同期比 226百万円改善の112百万円となりました。また、当期純利益は、412百万円改善の43百万円となりました。これは、売上原価率の改善と人件費及び物件費の改善などによるものであります。
- (5) 主力業態「和食麵処サガミ」の既存店売上原価率は、メニュー政策及び販売促進政策の見直しなどにより、前年同期比で0.8%減の30.5%となりました。また、人員配置の適正化などの継続的な削減計画を実施した結果、前年同期比でF L R (食材費・人件費・賃料) 比率が1.2%改善いたしました。
- (6) 連結当期純利益は43百万円となり、平成24年3月1日公表の業績予想に対し、93百万円の増益となりました。

6. 平成25年3月期の業績予想

○連結ベースの業績予想

単位 (百万円/円)	平成24年 1月期	平成25年 3月期 (予)
売上高	19,561	21,600
営業利益	146	280
経常利益	149	270
当期純利益	△743	160
一株あたり 当期純利益	△30.50	6.56

○単独ベースの業績予想

単位 (百万円/円)	平成24年 1月期	平成25年 3月期 (予)
売上高	17,111	17,000
営業利益	264	400
経常利益	264	390
当期純利益	△665	300
一株あたり 当期純利益	△27.29	12.30

○連結ベースの業績予想について

- (1) 平成24年3月1日に発表いたしました連結業績予想から修正はありません。
- (2) 平成25年3月期の連結売上高につきましては、21,600百万円を見込んでおります。第4四半期累計(12ヶ月ベース)では、子会社の売却と業態転換及び店舗閉鎖での営業日数減少による減収700百万円を見込み、前年同期比3.9%減収の18,800百万円と予測しております。
- (3) 平成25年3月期の単体売上高につきましては、17,000百万円を見込んでおります。第4四半期累計(12ヶ月ベース)では、前年比△13.5%の14,800百万円と予測しております。これは、平成23年9月21日より「フランチャイジー店舗」と「製麺大学」を、株式会社ディー・ディー・エーに移管したためであり、主力業態である「和食麺処サガミ」は、前年同期比100.0%の売上高を見込んでおります。
- (4) 平成25年3月期の連結経常利益につきましては、270百万円を見込んでおります。第4四半期累計(12ヶ月ベース)では、300百万円を予測しております。決算が2ヶ月と11日伸びたにも関わらず、経常利益の予測が減少している理由は、季節的な変動によるものです。
- (5) 配当につきましては見送る方針であります。

※業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

ディスクロージャーポリシー (Disclosure Policy)

(1) 基本方針

サガミグループは、「食文化を通じて地域社会に奉仕する」「企業を通じてお客様に奉仕する」という経営理念のもと、すべてのステークホルダーに対し、透明性、公平性、継続性を基本に証券取引法及び上場取引所の定める法令・規則を遵守し、タイムリーな情報提供に努めます。

(2) 情報開示の方法

東京証券取引所が定める適時開示規則に該当する情報の開示は、同取引所へ事前説明後、同取引所の提供する適時開示電子情報システム(TDnet: Timely Disclosure Network)に登録し提供しています。TDnet 公開後、すみやかに報道機関に同一情報を提供するとともに、当社ホームページへも掲載いたします。ただしシステムの都合上、これら情報の当社ホームページへの掲載が遅れることもあります。

また、適時開示規則に該当しないその他の情報につきましても、適時開示の趣旨を踏まえて適切な方法により正確かつ公平に開示する方針です。

(3) 業績予想および将来の見通しについて

サガミグループの計画・将来の見通し・戦略などのうち、過去または現在の事実に関する以外は、将来の業績に関する計画や見通しであり、これらは現時点で入手可能な情報による判断に基づいております。

したがって、将来の業績等につきましては、様々なリスクや不確定要素の変動および経済情勢の変化などにより異なる場合があります。

(4) 沈黙期間について

サガミグループは決算情報の漏洩を防ぎ、公平性を確保するため、決算発表日の一ヶ月間前の一定期間を「沈黙期間」としております。この期間は、決算に関する質問への回答やコメント、IR活動を控えることとしております。ただし、この沈黙期間中に業績予想を大きく変動する見込みが発生した場合には、開示規則に従い適宜公表いたします。

なお、沈黙期間であっても、すでに公表されている情報に関する範囲のご質問等につきましては対応いたします。

(5) ディスクロージャーポリシーの遵守

サガミグループは、「企業の社会的責任(CSR: Corporate Social Responsibility)」の観点からもグループの役職員全員に上記のディスクロージャーポリシーを周知徹底し遵守します。